

保存版

2008

広報
date
おおだて

防災マップ



風水害・台風・土砂災害・地震に備えて

この防災マップは、大館市内の避難所や洪水時の浸水想定区域と、災害に備えての準備や心構えを明記し、市民の皆さんの防災意識を高めたいと、ご自宅の良く見える場所に掲示して、日頃から防災に関心を持って、災害に備えてください。

 大館市

土砂災害に備える

自然からの警告に注意してください

災害が起こるときには、このように前兆現象と思われるちょっとした変化が見られます。危険な場所を見つけたら、市役所に連絡し、早めに避難所へ避難しましょう。

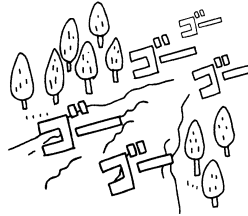


このような谷や山の斜面が危険です！

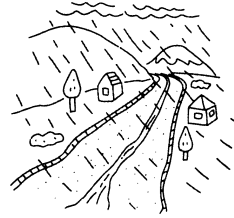
- ・ 溪流のこう配が急なところ
- ・ 大きい石がゴロゴロしているところ
- ・ 上流が山崩れなどで荒れているところ
- ・ 過去に土石流があったところ

土石流とは

大量の土砂が水と共に流れ下り、家屋などを押し流し、道路を寸断してしまう災害です。



地鳴りや立ち木の裂ける音、石のぶつかり合う音が聞こえてくる。

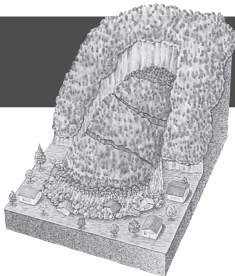


雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。



川の水が濁ったり、流木が混ざったりし始める。

土石流の前兆現象



このような谷や山の斜面が危険です！

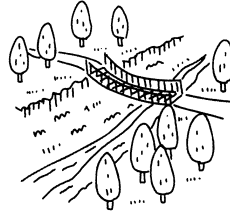
- ・ 緩やかな斜面の上に滑り落ちた跡があるところ
- ・ わき水や地下水が豊富なところ
- ・ 火山作用あるいは、温泉作用で粘土化した土があるところ
- ・ 過去に地滑りがあったところ

地滑りとは

土塊全体がそのまま滑り出し、家屋や道路を変形させたり、破壊したりする災害です。



地面にひび割れができる。

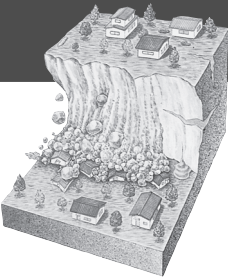


沢や井戸の水が濁る。



斜面から水が吹き出す。

地滑りの前兆現象



このような谷や山の斜面が危険です！

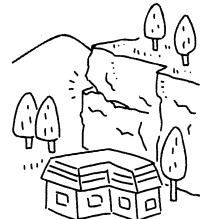
- ・ 斜面の角度が30度以上のところ
- ・ 山の斜面に亀裂やわき水があるところ
- ・ 過去にがけ崩れがあったところ
- ・ ときどき落石があるところ

がけ崩れとは

斜面が急に崩れ落ちて、家屋などを押しつぶし、道路を寸断してしまう災害です。



がけからのわき水が濁る。



がけに亀裂が入る。

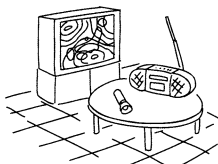


小石が転がり落ちてくる。

がけ崩れの前兆現象

避難するときは、次のことに注意してください。

避難前の注意



- ・ テレビやラジオなどで気象情報を聞きましょう。
- ・ 火気の始末をしましょう。
- ・ 行動しやすい服装をしましょう。
- ・ 懐中電灯や雨具の用意をしましょう。
- ・ 早めの避難に備えましょう。

避難の途中の注意



- ・ 絶対に溪流を渡らないようにしましょう。
- ・ 溪流と直角の方向に避難しましょう。
- ・ 危険 がけ崩れ、洪水などな箇所は避けましょう。
- ・ 誘導員がいる場合は、誘導員の指示に従い、勝手な行動は慎みましょう。

地震に備える

屋内にいるときは...

寝ているとき

- 布団や枕で頭部を守りましょう。
- 家具が倒れてこないところに身を伏せましょう。
- 暗やみでは、室内の様子を把握しにくくなるので、普段から枕元には懐中電灯、携帯ラジオを用意しましょう。



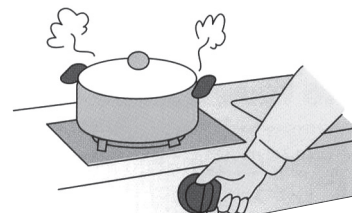
お風呂やトイレに入っているとき

- お風呂場やトイレは、家の中でも比較的安全な場所と言われています。あわてて外に飛び出さないようにしましょう。
- 入浴中のときは、湯船の中で様子を見ましょう。落下物に注意が必要です。
- トイレのときはドアを開けて、様子を見ましょう。



料理をしているとき

- グラツときたら、火の始末。「火を消せ!」と大声で叫ぶことも大事です。ただし、身の安全確保が最優先。大地震を感知すると、ガスの供給を遮断する装置の整備も進んでいることから、決して無理はしないようにしましょう。
- 台所には食器棚や冷蔵庫など、危険がいっぱいです。なるべく早く台所から離れましょう。



屋外にいるときは...

歩いているとき

- 建物からの落下物に注意。バックなどを持っていたら、それを使って頭部を保護しましょう。
- 狭い路地やブロック塀、がけや川べりには近付かないようにしましょう。
- 橋や歩道橋にいるときには、手すりや柵にしっかりとつかまり、振り落とされないようにしましょう。また、橋は倒壊する恐れもあるので、揺れが収まったら即座にその場を離れましょう。
- 切れた電線には、決して触らないようにしましょう。



車を運転しているとき

- 徐々に速度を落とし、道路の左側に寄せてエンジンを切りましょう。
- 揺れが収まるまで車外には出ず、ラジオで情報を聞きましょう。
- 車外へ避難するときには、ロックせずに、キーは付けたままにしましょう。
- 車検証などの貴重品は、忘れずに持ち出しましょう。









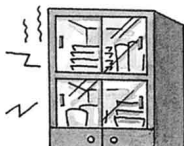



原則として、避難に車は使用しないでください。

山間部からの避難、お年寄りや重傷者など歩行困難な方を伴った避難など、どうしても車を使わなければならない場合以外は、

歩いて避難しましょう。

とっさの状況判断が、生死を左右します。

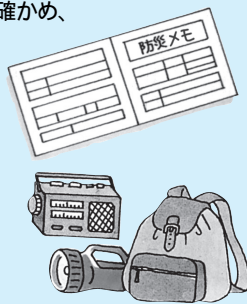
地震の揺れと被害想定 (気象庁震度階級関連解説表から作成)

震度 0	人は揺れを感じません。 	震度 5弱	家具が移動したり、食器や本が落ちたり、窓ガラスが割れることもあります。 
震度 1	屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じます。 	震度 5強	タンスなどの重い家具や外では自動販売機が倒れることもあります。自動車の運転は困難です。 
震度 2	屋内にいる人の多くが揺れを感じます。つり下がっている電灯などが、わずかに揺れます。 	震度 6弱	立っていることが難しく、壁のタイルや窓ガラスが壊れ、ドアが開かなくなります。 
震度 3	屋内にいるほとんどの人が揺れを感じ、棚の食器が音を立てることがあります。 	震度 6強	立っていられずにはわなないと動くことができません。重い家具のほとんどが倒れ、戸が外れて飛びます。 
震度 4	眠っている人のほとんどが目覚めます。部屋の不安定な置物が倒れ、歩行中の人も揺れを感じます。 	震度 7	自分の意思で行動できません。大きな地割れや地すべり、山崩れが発生します。 

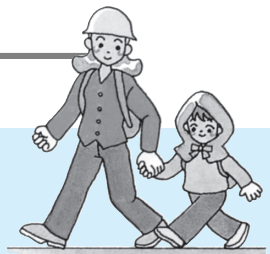
避難するときは

避難の心得 10カ条

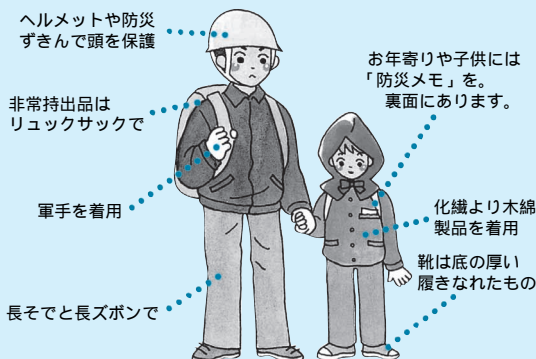
- 1 避難する前に、もう一度火元を確かめ、ブレーカーも切りましょう。
- 2 防災メモ (裏面にあります) を身に付けましょう。
- 3 ヘルメットや防災ずきんで頭を保護しましょう。
- 4 荷物は最小限にしましょう。
- 5 外出中の家族には連絡メモを残しましょう。



- 6 避難は徒歩で。車やオートバイは厳禁です。
- 7 お年寄りや子供の手はしっかり握りましょう。
- 8 近所の人たちと集団で、まず決められた集合場所に集まりましょう。
- 9 避難所へ移動するとき、狭い道、塀ぎわ、川べりなどは避けましょう。
- 10 近くの避難所へ避難しましょう。



避難するときの服装



避難するときのルール

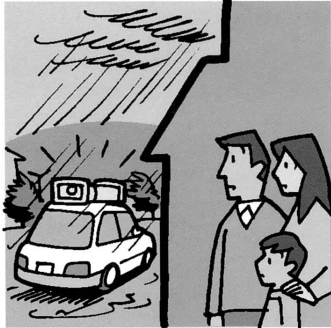
避難するときは、混乱防止のため、決められたルールと秩序を守り、お互いに協力し合うことが大切です。特に、乳幼児、高齢者、病人、身体の不自由な人を安全に避難させるために、日頃から十分な対策を立てておきましょう。また、災害時に車で避難すると避難所やその周辺が車で混雑し、かえって避難が遅れます。救護・救援活動の妨げにもなりますから、自分の都合だけを考えた車での避難は絶対にやめましょう。

風水害に備える

1 気象状況に注意し、早めの対応を

気象状況に注意し、早めの対応を心掛けましょう。家族や地域で協力し合い、対応することが災害の被害を少なくすることにつながります。

大雨が降り出したら



防災広報に注意し、近くの川の水位上昇にも注意しましょう。



がけ地や河川の近くでは早めに避難の準備をしましょう。



地域の水防活動に協力しましょう。

2 台風 (気象庁ホームページから抜粋)

台風は、その襲来時期や規模、被害の程度などの予想が可能です。そのため、事前の対策次第で被害を最小限にすることができます。台風が近付いたら、気象情報には十分注意し、適切な対応を取るようにしましょう。

台風の強さと大きさ

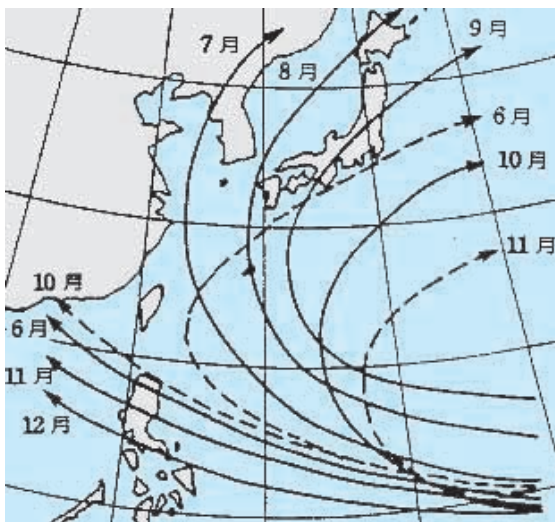
強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s(64ノット)以上~44m/s(85ノット)未満
非常に強い	44m/s(85ノット)以上~54m/s(105ノット)未満
猛烈な	54m/s(105ノット)以上

大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型 (大きい)	500km以上~800km未満
超大型 (非常に大きい)	800km以上

台風の経路



台風の大きさ

大型、超大型の台風それぞれの大きさは、日本列島の大きさと比較すると次のようになります。



!!! 雨の降り方と水位情報

気象情報ではよく「1時間雨量 mm」という表現が出てきます。
 そのときの雨の強さが具体的にはどのようなものなのか、どのくらいの水位になったら避難するのかイメージしてみましょう。



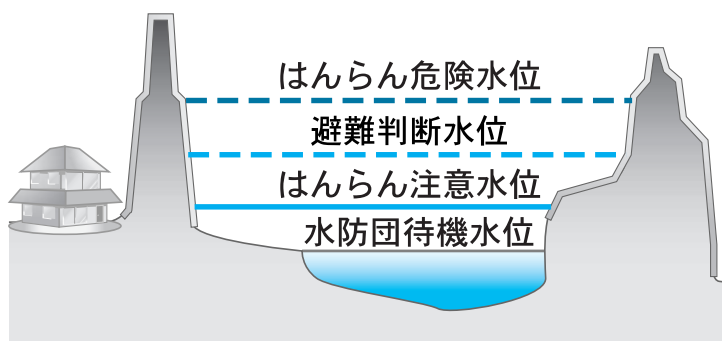
雨の強さと降り方 (気象庁資料を参考にして作成)

1時間雨量 (mm)	予報用語	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	災害発生状況
10以上～20未満	やや強い雨	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない		この程度の雨でも長く続く時は注意が必要
20以上～30未満	強い雨	傘を差していてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気が付く	地面一面に水たまりができる	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる
30以上～50未満	激しい雨			道路が川のようにになる	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要 下水管から雨水があふれる
50以上～80未満	非常に激しい雨	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきで辺り一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	マンホールから水が噴出する 土石流が起こりやすい 多くの災害が発生する
80以上～	猛烈な雨				雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要

水位観測所 水位情報 (-:水位未設定)

河川名	米代川					長木川		犀川	引欠川	下内川	
	下川沿	吉富士	扇田橋	扇田(大橋)	十二所	餅田	有浦	二井田	小袴	松峰	白沢
はんらん危険水位	-	-	-	4.00m	5.30m	3.50m	3.70m	-	-	3.40m	1.50m
避難判断水位	-	-	-	3.70m	5.00m	3.00m	2.80m	-	-	2.80m	1.20m
はんらん注意水位	2.00m	3.55m	2.30m	3.50m	3.00m	2.00m	2.00m	2.00m	2.00m	1.60m	1.00m
水防団待機水位	1.50m	2.70m	1.70m	2.70m	2.50m	1.20m	1.20m	1.50m	1.50m	1.30m	0.80m

水位観測所横断面図



- - - - **はんらん危険水位**
 避難判断水位を上回り、はんらんがいつ発生してもおかしくない水位。
- - - - **避難判断水位**
 はんらんに警戒し、避難を判断する水位。避難に当たっては、市長が発する避難情報に注意。
- — — — **はんらん注意水位**
 はんらんの発生に注意し、水防団(消防団)が出動する水位。
- **水防団待機水位**
 水防活動のため、水防団(消防団)が待機する水位。

非常時に役に立つもの

災害時に備えて準備しておくものは、家族構成を考えて必要数をそろえ、保管しておきましょう。また、非常持出品は、リュックサックなどの非常持出袋に入れて保管し、それ以外の備蓄品とは分けておきましょう。

最低限準備しておくべきもの(非常持出品)

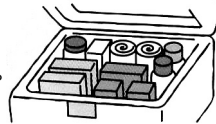
非常食及び飲料水

調理の不要な缶詰、乾パンなど、3日分を用意。水はペットボトルで準備を。



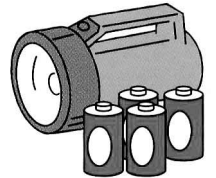
救急医薬品

消毒薬、包帯、ばんそうこう、かぜ薬、解熱剤、胃腸薬など。常備薬があれば、必ず準備。



懐中電灯

できれば1人につき用意を。予備電池と電球も合わせて準備。



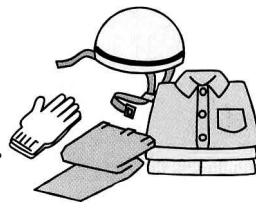
携帯ラジオ

AM・FM両方を聴けるものを用意。予備電池も多めに準備。



ヘルメット・軍手・タオル・着替え (上着・下着)

一人ひとりに準備。着替えの衣類は、長そでと長ズボンを用意。



現金・貴重品

現金には、公衆電話の活用を考慮して、10円硬貨も準備。貴重品は、預金通帳、健康保険証、免許証や印鑑など。



その他

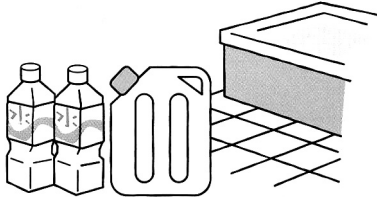
ライター・マッチ、ろうそく、ナイフ、缶切り、ビニール袋、ティッシュ、ウェットティッシュ、ビニールシート、生理用品など。乳幼児やお年寄りがいる家族は、ほ乳瓶、粉ミルク、紙おむつなども忘れずに。



被災後の生活のために準備しておきたいもの(被災用備蓄品)

水

1人1日当たり3リットルを目安に、3日分の備蓄を。ペットボトル、ポリタンクへのくみ水のほか、風呂おけへの貯水を習慣づけることも大切。



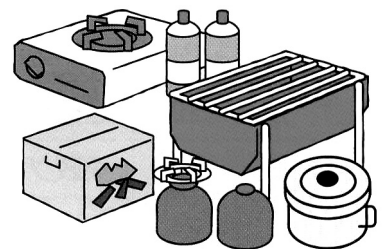
食料

缶詰、レトルト食品、カップ麺、栄養補助食品など。非常食3日分を含め、7日分を目安に確保。



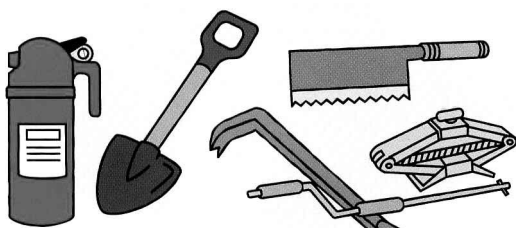
カセットコンロなど

予備ボンベも忘れずに。野外バーベキュー用品(木炭・固形燃料も合わせて備蓄)も便利。



消火・救助用品

消火器、のこぎり、スコップ、パール、車のジャッキなど。



その他(近年の大震災で役に立ったもの)

- ・ホイッスル
- ・予備の眼鏡・補聴器
- ・ビニールシート
- ・ビニールラップ
- ・新聞紙
- ・携帯トイレ
- ・使い捨てカイロ
- ・裁縫セット
- ・ガムテープ
- ・地図
- ・さらし
- ・筆記用具(マジックなど)

大規模災害の発生直後は、ライフラインの損壊等により、救援物資がすぐには届かないことも考えられます。発生から最低3日分の非常食及び飲料水を準備しておく必要があります。

わが家の 防災メモ

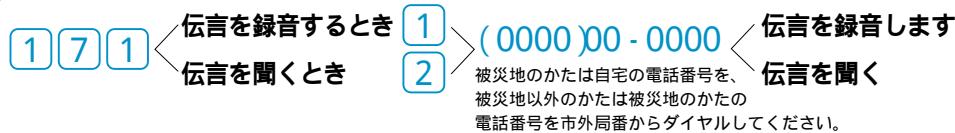
火事・救急 **119**番

警察 **110**番

災害用伝言ダイヤル **171**番

災害用伝言ダイヤル「171」の使い方

サービス開始はテレビ・ラジオ等で発表されます



大規模災害発生時、携帯電話各社は「災害用伝言板」サービスを提供します。詳しくは各社にお問い合わせください。

家族・親せき・知人の連絡先

名前	連絡先（勤務先・学校等）	電話番号	携帯電話番号

家族が離ればなれになったときの連絡手段

災害時は一般の電話がつながりにくくなります。家族が離ればなれになってしまったときの連絡方法を事前に決めておきましょう。

緊急時連絡先

連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
市役所	49-3111	市立総合病院	42-5370
消防署	119		
警察署	110		
水道課	43-7090		
東北電力	(停電時)0120-175366		

市から提供する情報(避難行動基準)

種別	市からの呼び掛けの内容	とるべき行動
避難準備情報	地区の皆さん。 大雨・洪水警報が発令されています。 川が増水していますので、避難の準備をしてください。	お年寄りや子ども等、災害時要援護者は指定された避難所へ早めに避難行動を開始しましょう。 上記以外のかたは、いつでも避難できるように準備しましょう。
避難勧告	地区の皆さん。 川の堤防が決壊する恐れがありますので、避難の準備を始めてください。	通常の避難行動ができるかたは、指定された避難所等への避難行動を開始しましょう。
避難指示	地区の皆さん。 川の堤防が決壊する危険があります。直ちに指定の避難場所へ避難をしてください。	避難中の市民は、確実に避難行動を直ちに完了しましょう。 未だ避難していない対象市民は、直ちに避難行動に移りましょう。

非常用品チェック

非常持出品 災害発生時に最初に持ち出すもの。避難時にすぐに取り出せる場所に保管しましょう。

品名	点検日記入欄	品名	点検日記入欄
飲料水		ライター、マッチ	
非常食		ナイフ、缶切り、栓抜き	
携帯ラジオ(予備電池)		救急医薬品	
懐中電灯(予備電池)		常備薬	
ヘルメット(防災ずきん)		貴重品(預貯金通帳、印かんなど)	
軍手		現金(10円玉含む)	
タオル		身分証明書など	
衣料			

非常備蓄品 発生から復旧するまでの数日間を支えるもの。数日間は自足できる準備をしましょう。

品名	点検日記入欄	品名	点検日記入欄
水(1人当たり1日3リットル)		ウェットティッシュ、トイレトイレットペーパー	
食品(レトルト食品、ドライフーズ、缶詰など)		簡易トイレ	
食品(チョコレート、のどあめなど)		使い捨てカイロ、マスク、裁縫セットなど	
燃料(卓上コンロ、固形燃料など)		工具類(ロープ、パール、スコップなど)	
毛布、タオルケット、寝袋など			
簡易食器(割りばし、紙皿、紙コップ)			
ラップ、アルミホイル			

このほか、乳幼児や妊婦、要介護者などがある家庭では、ミルクやおむつ、常備薬など必要に応じた準備をしましょう。